



秋葉区「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市秋葉区善道町2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692

<http://www7a.biglobe.ne.jp>

/~hiro-line/nk9jo/index.htm

第2回 全国交流集会 が開かれました！

「秋葉区九条の会」から2人の代表が参加

「九条の会」が結成されて3年半。11月24日第2回全国交流集会が東京の日本教育会館で開催されました。全国から510の「会」の代表1020名の参加。午前中の全体会ではよびかけ人5氏のあいさつと各地・各界から5つの報告があり、午後11の分散会と青年分科会で交流が行なわれました。

小森事務局長は開会にあたって、情勢の動きにふれ「一つ一つの中に草の根から積み上げた大きな力が宿っている。『変えない方がよい』を一步進めて『変えてはならない』にしていく必要がある。日本から平和の実践の可能性を追求していく新しい運動の出発点にしたい」と強調。「九条の会は全国で6801(第1回交流会時の4.2倍)、全国の地域・職場・学園・分野で大きく広がり、42都道府県で県段階の『会』が確立された」と報告されました。

今交流会の特徴は青年分科会がもたれたこと。地域と結びついた地道な草の根の活動が報告され、会場全体が活気に満ちていました。分散会のあとの全体会では各分散会・分科会の報告が紹介され、最後に『「九条の会」からの訴え』が確認され、散会しました。

事務局 庭田盛範

「九条の会」の全国集会に参加しました。

先ず超満員の会場の熱気からこの運動が大きな広がり大きな力を持ってきたのを感じました。

出席された奥平、加藤、澤地、鶴見、大江の各氏の挨拶はその内容と共にその間にそれぞれの性格も垣間見られ興味深く感じられました。全体会で各地の5つの「九条の会」の活動報告が行なわれましたが、それぞれの立場、状況のなかで工夫を重ね、協力しながら努力を続けておられる様子はすべての参加者にとって大きな励みになったはず。いかなる組織にも依存せず、全く自発的なこの運動はこのようにして大きく、力強くなったのだと思います。

小泉内閣以降の一気に成り上がった改憲の動きは安倍内閣の粗雑さ、参議院選挙で示された市民の力によって一先ず挫折を来しましたが、改憲をめざす勢力は健在であり、戦略を練り直し状況を窺っているところでしょう。今後私達の運動は難しさを抱えながら長く続くことになると思います。しかし今日国際情勢が多く困難な問題によって大きく動き、国内でも憲法で保障された国民の諸権利が奪われつつある中で、市民の意識にも私達の希望に繋がるような変化が見られます。

鶴見さんが話の中で「これを続けることは85歳の私にとっては難しいことではない。あと2、3年でしょうから。(若い)皆さんにとっては難しいかもしれない。」

協力し、ゆっくり進みましょう。

呼びかけ人 斎川長三

「九条の会」からの訴え

「九条の会」アピールへの賛同の輪を創意をこらして広げ、9条改憲反対、9条生かそうの圧倒的世論をつくろう。

職場・地域・学園の草の根で、日本国憲法9条のすぐれた内容と改憲案の危険な内容についての理解を深めるための大小無数の集会を開こう。

当面、「すべての小学校区に九条の会」を合言葉に、文字どおり思想・信条・社会的立場の違いをこえた「会」をつくろう。地域・分野の「会」のネットワークをつくり、交流・協力しあって運動を前進させよう。

全国交流集会の反響広がる

第2回全国交流集会は大きな成功をおさめました。当日のもようは新潟日報（12月4日付）にも掲載され、神奈川新聞はこの全国交流集会そのものを「社説」で取り上げました。全国の多くの地方紙でも取り上げられ、「九条の会」の運動が草の根に広がっていることを反映しているのではないのでしょうか

新潟日報（12月4日付）

解釈改憲に抵抗を

「九条の会」が全国交流会

護憲を訴えて二〇〇四年に結成された「九条の会」の第二回全国交流集会在が、東京都千代田区で開かれ、呼び掛け人を務める評論家や作家らが、あらためて九条を守る意味を語った。

評論家の加藤周一さんは「改憲を派手に打ち上げた安倍内閣に比べ、慎重で現実的な判断をする福田内閣の方が比べものにならないくらい手ごわい。解釈改憲で内容を空虚にしていく政治の動きに抵抗するには、複雑な理屈を破り、九条を守るだけでなく、憲法を生かす必要がある」と述べた。

作家の大江健三郎さんは「個性的であり、普遍的であるというのは憲法と教育基本法に書かれた日本人への教育の原則です。そういう文化をつくるという精神は生きていくと思えます」と語った。

「七月に亡くなった小田実さんは『小さな人間が参加しなければ政治は変わらない』と言いました。市民として自覚し、何かをやるうという人が全国に広がったことに希望を持ちたい」と作家の沢地久枝さん。

哲学者の鶴見俊輔さんは「活動をもっと長く続けていくうちに、人類の歴史の中で戦争がなくなることを目指してやれるかもしれない。そういうふうになってほしい」と呼び掛けた。

事務局によると、全国各地で活動する「九条の会」は昨年六月から約千六百団体増え、六千八百一団体に。府県レベルの「九条の会」は四十設立されたという。全国から集まった約千人が日ごろの活動を報告し、交流を深めた。

「神奈川新聞」社説（「九条の会ニュース99号」より転載）

11月30日、「九条の会 多様な議論の広がり」に期待」とのタイトルの「社説」を掲げました。

「社説」では、「九条の会」結成から3年半が経過したことを紹介し、「この1年半に、全国で1627、県内で57増えた。集会には全都道府県から約千人が参加し、すべての小学校区（約2万2千）に草の根の会をつくるという壮大な目標も掲げた。改憲をめぐる攻防において、『九条の会』は護憲側の連帯の結節点となりうる存在だけに、行動の行方を注目したい」と述べています。

そして、「草の根の会の結成は、それぞれ当事者任せ。非武装中立派から、政府の現在の九条解釈論を支持する自衛隊・日米安保容認派まで、会員は“多様性”を誇っている」ことが「九条の会」の特質であることを指摘しています。

情勢の見方については、「現状は九条擁護に追い風が吹いているかに見えるが、集会では楽観論を戒める声も上がった。呼び掛け人で評論家の加藤周一さんは『安倍内閣より福田内閣の方が手ごわい。自衛隊派遣恒久法など、解釈で九条を空虚にしていく手法が取られるだろう。長丁場だ。これからが大変』と語った」と紹介しています。

そして空白区を埋めていくことやネットワークづくりを計画していることなど、今後の「九条の会」の運動にふれながら、「『九条の会』には、新たな視点から九条の意義を再認識させるような創造的な議論を期待したい」と結んでいます。

「日本の青空製作委員会」からの礼状

このたびはカンパ（5万円）を頂きましてまことにありがとうございました。今年は500カ所をめざしてスタッフ一同頑張っております。みなさまのご活躍をお祈り申し上げます。

平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、
皆でつなく、平和のメッセージを！

沖縄民衆の怒りから学ぶ 細貝 正人

今年、沖縄が一つになった。沖縄戦における「集団自決」の日本軍強制の記述を教科書から削除・修正した権力やそれと連なる潮流への島ぐるみの煮えたぎる怒りが、沖縄の津々浦々から澎湃として湧き上がり、「教科書検定意見撤回を求める県民大会」に思想・信条を超えた11万6千人もの島民が集まった。未曾有のことだ。

私は、9月中旬から1ヶ月間『沖縄タイムス』を購読して沖縄の怒りを少しでも共有したいと、毎日刻々と報道される情勢と沖縄の人の思いや感情を探っていた。本土の商業新聞は事実報道だけで、その具体的な様相をほとんど知ることができないからである。戦後、何度もこうした史実を歪曲する政治が行われてきた。平和を崩そうとする勢力は、まず情報操作に手をつける。教科書改ざんが一番身近なものだ。「慰安婦問題」「南京大虐殺」然り。ほんの先日は「憲法の番人」であるはずの裁判所が、市民の自由なビラ配布まで弾圧し自由な言論を封殺する判決まで下した。平和（9条）・自由・民主主義・人権。これら憲法が精神が侵される時、やがて武器を持たされること必死であることを覚悟せねばならぬ。